

外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童の育成

ー表現の定着を目指した帯活動（Card Chat）と中間振り返り（Reflection Time）を重視した言語活動の工夫を通してー

研究のねらい

令和3年度 前橋特別研修研究員
前橋市立二之宮小学校 鰐川 道弘

外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童を育成するために、帯活動（Card Chat）の設定と中間振り返り（Reflection Time）を重視した言語活動の有効性を実践を通して明らかにする。

【児童の実態】

外国語を用いたコミュニケーションに対して消極的な児童や、自分の言いたいことがうまく伝えられないことにもどかしさを感じている児童が多い。



【指導上の課題】

児童が自分で伝えたいことを考えたり、互いに気持ちを伝え合ったりする活動を十分に確保することができていない。



実践内容

【外国語】第5学年 Unit5 Where is the post office?（全8時間）

単元目標：ALTの先生に教えたいおすすめの場所とその場所までの行き方を紹介しよう。

単元の流れ

1 2 3 4 5 6 7 8

○ウォームアップ（挨拶・歌・ゲーム等）

○帯活動 Card Chat【手立て1】 既習表現と対話を続けるための表現の定着

「～が好き」だから…
I like～
を使えばいいんだな。

I like blue.

What color do you like?

Oh, you like blue.（繰り返し）
Nice!（一言付け足す）



○Reflection Timeを重視した言語活動【手立て2】

英語で言えなかった表現を共有し、次の対話に生かす

Model

ALTとJTEのやりとり

Challenge（対話①）

自分の考えや気持ちの表現

Reflection Time（中間振り返り）

表現したいこと・困り感の共有

Try again（対話②）

Reflection Timeを踏まえ
もう一度表現



オクリンクを使って
困り感を共有



共有したものを
取り上げて…



カードにまとめて掲示

おすすめの場所を紹介し、その
場所まで地図を使って案内。



スライドを作成し、友達やALTと
やりとり。



○本時のまとめ、振り返り

一時間の流れ

【手立て1】既習表現と対話を続けるための表現の定着を目指す帯活動（Card Chat）

既習表現を使って身近で簡単な事柄について、ペアで自由に会話をする活動を毎時間の最初に設けた。帯活動にすることにより、児童が繰り返し何度も語彙や表現に慣れ親しむことができるようにした。



①「相づちをうつ」「繰り返しの表現を入れる」「感想を一言付け足す」などの対話を続けるための表現の中から、今日使う表現を提示する。

②ペアで会話のテーマが書いてあるカードを1枚引き、①の表現を使って互いに質問をしたり答えたりして、自分自身に関することや気持ちなどを伝え合う（60秒間）。

What do you want to be?

相づち表現

Oh, really? Nice!
You want to be 女優さん.
Why?

繰り返しの表現

I want to be a 女優さん!

I like musical.

既習表現

How about you?

【手立て2】英語で言えなかった表現を共有し、次の対話に生かすReflection Timeを重視した言語活動の工夫

Challenge（対話①）でうまく言えなかった表現についてペアで振り返った後、オクリンクを活用して全体で共有し、「言いたかった表現を既習表現で言い換えることはできないか」「どのような語彙なら自分の言いたいことを表現できるか」などについて意見交流を行った。Reflection Timeを生かして次のTry again（対話②）を行う展開を毎時間行った。



ペアで会話の振り返り

困り感の共有

クラス全体で意見交流

新しい表現を使って再度やり取り

一人一人の困り感を提出BOXを活用しオクリンクで共有

オクリンクの設定を「公開」にすることで、互いのカードを閲覧し、困り感を共有できるようにする。

ALTによる提示

児童から出たアイデアをその場で板書。必要に応じて言い換える等の支援を行う。

朝9時から開いているって何と言えば良いのかな？

朝9時は、「nine in the morning」だよ。

「開く」はopenだね。

「Open nine in the morning.」じゃないかな。

The shop opens from nine in the morning!

...opens from nine in the morning.

成果

- Card Chatを帯活動で行ったことで、日本語を使わずに相づちや繰り返し表現を使って会話を長く続けることができる児童が増えた。
- Reflection Timeで、表現したいことについて全員で考える時間を設けたことで、言いたかった表現を取り入れながら、自分の考えや気持ちを伝え合う姿が多く見られた。

課題

- ◇ペアの相手を替えながら言語活動を行うことができれば、児童はより多くの表現に触れることができるのではないかと考える。
- ◇外国語になると委縮してしまう児童もいることから、一人一人の活動の様子を見取り、個に応じたより効果的な支援を工夫する必要がある。